

6. ^{あそ}遊び・ゆとり

^{あそ}遊びが^こ子どもを^{おお}大きくする。



- ^こ子どもは^{あそ}遊びが^{しごと}仕事です。
- 「^{つか}疲れた」「^{つか}疲れた」という^い子どもが^こ増えている^ふ。
- ^{じんせい}人生で^{たいせつ}大切なことは、^し自然^{ぜん}の中で^{なか}学んだ^{まな}。
- ^{ほう}放課後^かや^{ぎゅうじつ}休日に^こ子どもたちが^た多様な^{よう}活動^{かつどう}ができる^い居場所^{ばしょ}をつくろう。
- ^{としうえ}年上^{としした}・^{ともだち}年下の^{あそ}友達と^{たいせつ}遊ぶことは、とても大切なことだ。
- ^{いえ}家でやる^{ねんじゅうぎょうじ}年中行事にも、^{ふか}深い^い意味^みがあるんだね。

こ あそ し ごと 子どもは遊びが仕事です。



あそ こ ところ せいちょう たいせつ あそ とお
遊びは子どもの心の成長にとっても大切です。遊びを通し
て、こ かんかく はたら うんどう そう
子どもは感覚を働かせ、運動をし、ものをつくり、想
ぞう 像します。しかし、あそ き かい へ そと
遊びの機会が減るとともに、外でかけ
まわるようなあそ いえ なか あそ め だ
遊びから、家の中でのひとり遊びが目立つよ
うになりました。また、おや しょうがっこう はい べんきょう だい
親も、「小学校に入ったら勉強が第
いち あそ お いしき き
一、遊びは終わり」というようなあやまった意識への切り
かえをしてはいないでしょうか。こ あそ
子どもにとって遊びがい
かにたいせつ にんしき
かに大切かを認識して、ゆったりのびのびとあそ
う。



こ あそ 子どもはのびのび遊ばせる

「^{つか}疲れた」「^{つか}疲れた」という ^こ子どもが^ふ増えている。



^{いま} ^こ今の子どもたちは^{ちい}小さいころから^{じかん}時間に^お追われ、^{あそ}遊ぶ^じ時間も^{かん}削^{けず}られています。^{あそ}遊ぶ^こゆとりの^{なか}ない子どもの中には、
「^{つか}疲れやすい」「^{なん}何でもないので^{うった}にイライラする」といった
^こストレスを^こ訴える子がかなりいます。

^こ子どもは、^{じゆう}ゆとりのある^{じかん}自由な^{あた}時間を与えられることで、
^{はじ}初めて^{こころ}心から^{あそ}遊びを^{たの}楽しんだり^{そう}創意工夫したりできるし、
^こ個性や^{せい}創造性を^{そうぞうせい}伸ばせるのです。^{おや}親は^{ゆう}勇気を^きもって^こ子ども
たちに^{じかん}時間と^{あた}ゆとりを^{あた}与えましょう。



^こ子どもの^{せい}生活に^{かつ}時間と^{じかん}ゆとりを^{あた}与える

^{じん せい}人生で^{たい せつ}大切なことは、 ^{し ぜん}自然^{なか}の中で^{まな}学んだ。



^こ子どもたちは自然^{し ぜん}の中で遊ぶ^{あそ}ことが少^{すく}なくなっています。
^{や がい}野外で遊ぶ^{あそ}ことをすすめたり、実^{じっさい}際に自然^{し ぜん}の中に^{なか}連れだし
 たりして、動植物^{どうしよくぶつ}や自然^{し ぜん}と、ふれあう楽^{たの}しさに気^きづかせま
 しょう。地^ち域^{いき}の自然^{し ぜん}に親^{した}しむ活^{かつ}動^{どう}に家^か族^{ぞく}ぐるみで、参^{さん}加^か
 たり、時^{とき}には親^{おや}から離^{はな}して子^こども一^{ひとり}人で参^{さん}加^かさせましょ
 う。自然^{し ぜん}の中で遊ぶ^{あそ}ことで、驚^{おどろ}きや感^{かん}動^{どう}を体^{たい}験^{けん}し豊^{ゆた}かな感^{かん}性^{せい}
 をはぐくむとともに、自然^{し ぜん}や環^{かん}境^{きやう}を大^{だい}事^じにする心^{こころ}や、忍^{にん}耐^{たい}
 強^{つよ}く行^{こう}動^{どう}するこ^{たいせつ}の大切^{まな}さなどを学^{まな}びます。

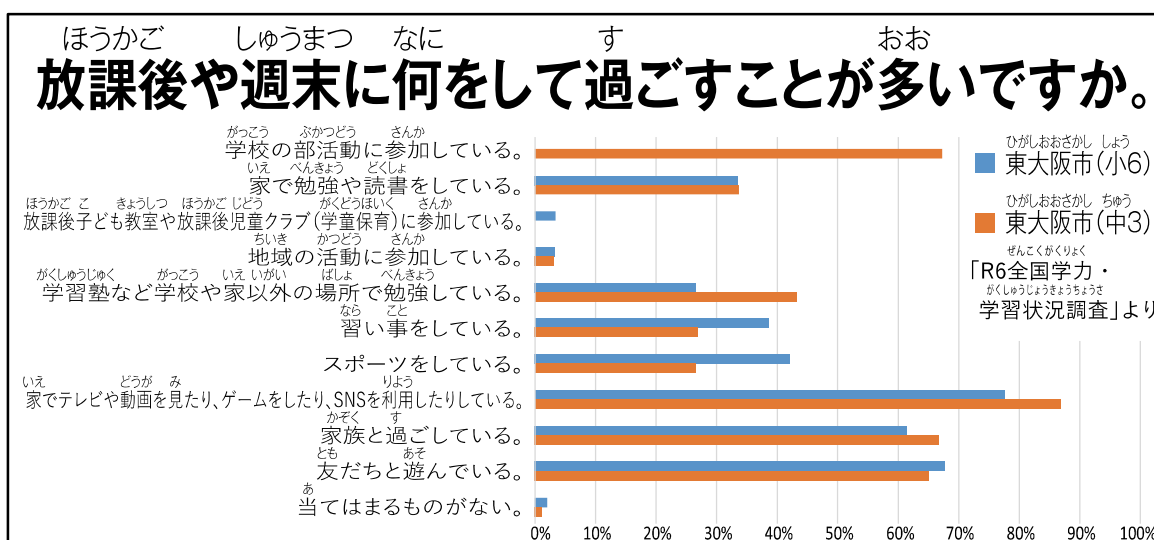


^こ子どもは自然^{し ぜん}の中で遊ぶ^{あそ}させる

放課後や休日に子どもたちの 多様な活動ができる居場所をつくろう。

子どもの健やかな成長には、大人の力をあわせて地域で子どもたちをはぐくむことが大切です。そのためには、まず、親が「自分の子どもは自らの責任で健全に育てる！」という決意をもつことが必要です。そして、子どもたちが安全に、スポーツや文化活動などができる居場所をつくっていく必要があります。

親自身も地域の大人として、子どもを育てていく姿勢をもちましょう。そして、放課後や休日に多彩な活動ができる場づくりをすすめ、子どもたちとともにいろいろな活動に参加しましょう。



子どもたちの健やかな成長を伸ばす場や機会をつくろう

とし うえ とし した とも だち あそ 年上・年下の友達と遊ぶことは、 たい せつ とても大切なことだ。



とし ちが しゅうだん なか こ にんげんかんけい
年の違う集団の中で、子どもたちは人間関係についてた
くさんのことをまな ねんしょう こ まも
学びます。年少の子はルールを守ることや
が まん たいせつ み ねんちょう こ おも
我慢することの大切さなどを身につけ、年長の子は思いや
り ところ しゅうだん やくわり は せきにんかん
の心や集団をリードしたり役割を果たしたりする責任感
やしな
を養っていきます。

ち いき ぶん か かつどう せいしやうねんだんたい
地域のボランティア・スポーツ・文化活動・青少年団体
かつどう とし ちが しゅうだん なか こ
の活動などは、それぞれ年の違う集団の中で子どもたちが
せつ さ たく ま き ちやう き かい ていきやう
切磋琢磨する貴重な機会を提供しています。

おや たいせつ みなお こ せっきよくてき さん か
親はその大切さを見直し、子どもたちを積極的に参加さ
せましょう。

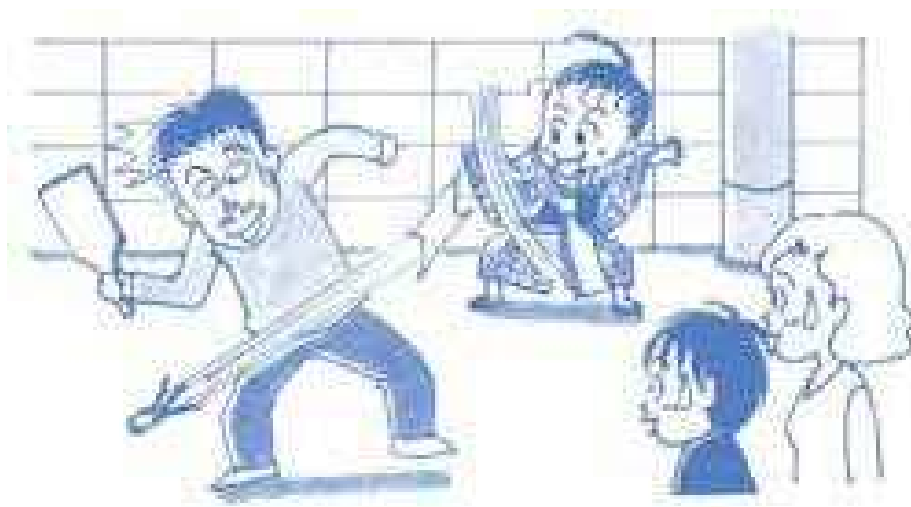
ち いき かつ どう
地域の活動など
とし ちが しゅう だん さん か
年の違う集団に参加させる

いえ ねん じゅうぎょう じ
家でやる年中行事にも、
ふか い み
深い意味があるんだね。



しょうがつ まつ たんご せっき たなばた たんじょうび
正月・ひな祭り・端午の節句・七夕・誕生日・クリスマ
ス・暮れの大掃除など、家庭内の行事では家族とのふれあ
いが深まるだけでなく、こうれいしゃ せ だいのことなるさまざ
まな人々とのかわりやつながりができるなど、ち いきしゃかい
へも目が向くきっかけになります。しかも、にほん ち いき
文化・伝統に親しむとても良い機会でもあります。

また、初詣や節分で無病息災を祈ったりすることは、人間の力を超えたものへの畏敬の念を深めるなど宗教的な情操をはぐくむことにもなります。



か てい ない ねん じゅうぎょう じ さい じ たい せつ
家庭内の年中行事や催事を大切にしよう